**中学校国語「確認しよう」（一年生用）**

「タマは、いつもがって幸せだなあ。」

あき子さんは、い猫のタマを見て、うらやましそうにそうつぶやきました。

あき子さんが通う小学校では、今、学習発表会の準備で大し。あき子さんは、大江戸町の歴史をするグループで、調べてきた歴史の内容をまとめているです。

　学校から帰っても、あき子さんの頭の中は、発表会のことでいっぱいです。

「もう少し歴史を調べてみよう」

「話す内容はあれでよかったかな」

　そんなときも、タマはあき子さんの足元でのどをゴロゴロ鳴らして甘えてきます。それを見てあき子さんはこう思うのです。「タマは、いつも寝転がって幸せだなあ。」と。

「タマ、今はいそがしいから、あとでかまってあげるね。」

発表会をひかえたあき子さんは、そう言いながら自分の部屋へ入り、発表の準備にとりかかるのでした。

　それから一週間がち、発表会前日となった木曜日。学校での発表リハーサルを終えたあき子さんが帰宅し、ドアを開けると、薄暗い足元から「ニャー」というさびしげな声がひびきました。タマです。昼間、だれもいないとき、タマはリビングから、せまい玄関フロアへ移動させされるのです。また、その日お母さんは、仕事のあと、ＰＴＡのがあるために遅くなるということを思い出しました。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 50字 |  |  | 30字 |  |

　玄関の明かりをつけると、タマがのどをゴロゴロと鳴らしながらあき子さんの足元を行ったり来たりしています。その様子をじっと見ていたあき子さんは気付いたのです。

【書き出しの一文】

　①ではタマと遊ぶよりも発表会準備が大切であったのが、②ではタマへの愛情が強くなっています。

「タマは、いつも寝転がって幸せじゃなかったんだ。い夕方まで、玄関で耳をすませて、みんなの帰りを待っていたんだね。」

　あき子さんはをぐのも忘れて、タマをなでてあげました。目を細めるタマが、「おつかれさま。よくがんばったね。」と語りかけているように感じました。

　夕食をすませたあき子さんは、ひざにタマを乗せてに座り、発表の練習を始めました。ひざの上のタマは、目を閉じて丸くなり、あき子さんの言葉に聞き入っているように見えました。

「この調子なら、発表はだね。」とタマは安心しているようです。

　タマに語りかけるように練習を続けているうちに、あき子さんは、がとけ、自信がわき上がってくるような不思議な感覚を味わいました。

　次の日の朝、玄関ドアに手をかけながら、いつもより大きな声で「行ってきます。」と言って振り返ると、タマがきちんと座って「ニャー」と送り出してくれました。あき子さんが小さな声で、「今日は早く帰ってくるからね。」と伝えると、その言葉を理解したのか、タマはうなずくように下を向き、毛づくろいを始めました。

　外に出ると、さわやかな秋晴れの空に、飛行機雲がまっすぐにのびていました。

「あき子さんと猫」より（県教委書き下ろし）

問　この物語について、学級新聞で内容を紹介することにしました。登場人物の気持ちの変化がポイントとなります。あなたなら、あき子さんの気持ちの変化について、どのようにまとめますか。次の条件に従って書きなさい。

条件１　書き出しの一文に続けて書くこと。

条件２　あき子さんの気持ちの変化を説明すること。

条件３　三十字以上、五十字以内で書くこと。